

||||||| 記 事 |||||||

例会記録

日本医史学会 5月例会 平成27年5月23日(土)
順天堂大学医学部センチュリータワー3F北306号室

1. 水島府県別生命表における刊行経緯・方法の変遷と生命表精度に関する認識 逢見憲一
2. 浅田宗伯生誕200年 渡辺浩二

日本医史学会 6月例会 平成27年6月27日(土)
順天堂大学医学部9号館4F第3会議室①

1. 日本近代コスメトロジー(化粧品学)と化粧品研究家藤波芙蓉 鈴木則子
2. コッホ碑の変遷についての考察 西巻明彦

例会抄録

東京医科歯科大学創立者 島峯徹による アイヌ人の口腔内調査について

——発見された90年前の研究誌
「純粹『アイヌ』人の口腔器関特に歯牙の研究」——

鈴木浩一郎, 戸出 一郎

昭和3(1928)年に東京医科歯科大学を創設した島峯徹は、大正8年と9年の2回にわたり、東大医学部の後輩の金森虎男と伴に北海道へアイヌ人の口腔内調査をした。

またその調査結果を大正15年に出版したのが表記の研究誌である。そのほぼ同じ時期に、島峯の師匠格の小金井良精(東大解剖学教授)も「人類学研究」を同じ出版社から刊行しており、島峯の研究誌の書評もその中に挿入されている。

アイヌ人は当時既にかなり雑種化されており、人類学的見地を重要視する島峯が求める純粹アイヌ人を探す事からして困難な事であった。其の為、大正8年は現地の事情が良く分からず、準備不足もあって目的を達成出来なかった為、翌年の9年に再度文部省より国費を得、準備も万端にし

て調査をした。

その結果を略述すると、口腔衛生思想が全く無いにも拘わらず、純粹アイヌ人には虫歯が少なく、歯周病に到っては殆んど無きに等しい状態であった。中でも島峯達を驚かせたのは誠に健全な顎骨と歯列弓であった。上下顎とも第三大臼歯を含めて歯列が理想的に配列されており、当時日本人に多く見られた不正歯列は殆んど見当たらなかった。以前より生活環境を和人に強制的に圧迫され、肉食中心だった食生活も大幅に変化していたにも拘わらず、顎顔面領域の形態は昔の姿を変えていない。それに比べ、内地の和人は口腔衛生思想を多少なりとも身につけているにも拘わらず、歯列不正が甚だしい。虫歯や歯周病も多発している。

これは如何なる原因でこうなったのであろう